

Ⓐ ジオステーションおかた港

岡田港に着いたらまず立ち寄ろう！

船客待合所2階で伊豆大島ジオパークの基本情報＋最新情報が入手できます。岡田港到着の際はこれから巡る場所の確認に、お帰りの際は次回ご来島の計画づくりにご活用ください！
【開館】当日の出帆港が岡田港の日の最終便の出航まで（船の運航時刻により変動あり）



① 赤禿（あかっぱげ）

海に突き出た赤い丘

マグマが上空に勢いよく噴き上がり、火口の周りに急速に降り積もる噴火が起こった跡です。マグマの粒がまだ高温のうちに空気に触れたため、酸化して赤さび色になりました。このときできた小さな火山の形はやがて波に削られていき、現在は海を望む絶好の展望所となっています。



② 長根（ながね）

天然の桟橋？

1338年、山腹で起きた割れ目噴火の溶岩流が沢を下り、元町地区の低い土地を埋め立てながら海まで流れ込みました。当時は今より100メートルほど先まで陸地が続いていましたが、周囲のもろい地面が波に削られ海岸線が後退し、硬い溶岩だけが岬として残りました。



③ 元町浜の湯 ほか

火山でほっこり♪

1986年の噴火によって、元町地区の地下水がマグマの熱で温められて温泉に変わりました。
浜の湯では、伊豆半島に沈む夕日が空と海を茜色に染める光景を、露天風呂に入りながら眺めることができます。地下水を利用していた中学校の屋外プールも温水になりました！



Ⓑ 伊豆大島 火山博物館

火山あつめました！

伊豆大島火山はもちろん、日本や世界の火山を紹介しています。伊豆大島ジオパークのヒミツと魅力が楽しめる大迫力の4K映像も上映中です。
【開館】9:00～17:00／年中無休（年11日間の臨時休館日あり）
【料金】一般500円、小中学生250円



④ 地層大切断面

巨大バウムクーヘン



約2万年間に繰り返し起こった大噴火、約100回分の噴出物が巨大な縞模様をつくりあげました！ この地層は1953年、道路建設工事のため山を削ったときに発見されたものです。もともと起伏のある地形に沿って噴出物が降り積もったため、大きく波打つ地層ができました。島の噴火の歴史を物語る、まさに島の履歴書です。

⑤ 砂の浜（さのはま）

ふかふかのブラックビーチ

沢を流れ下った火山灰や火山砂、砕けて細かくなった溶岩が集まってできた黒い砂浜です。黒い色が熱を吸収するため、夏に裸足で歩くと火傷しそうな熱さです。この浜には毎年ウミガメが産卵に上がってきますが、地中の温度が高いため、卵がかえる日数も南の浜より早いそうです。



花のリレーを楽しもう♪

～東海上の花彩島～

繰り返す噴火による荒地や島ならではの強い潮風にも負けないたくましい植物が、春夏秋冬、島を彩ります。



〈発行〉
伊豆大島ジオパーク推進委員会
事務局／〒100-0101 東京都大島町元町1丁目1-14
大島町観光課ジオパーク推進係
TEL：04992-2-1446
E-Mail：c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp
2021年3月版

凡例

- トイレ Toilet
- 神社 Shrine
- ガソリンスタンド Gas Station
- 駐車場 Parking
- 温泉（日帰り入浴施設） Hot Spring
- 車両進入禁止 No Entry for Vehicles
- 国際優秀つばき園 International Camellia Garden of Excellence

国立公園特別保護地区

伊豆大島は「富士箱根伊豆国立公園」に指定されており、自然公園法で守られています。豊かな自然や希少な資源を大切にしながらお楽しみください。

※国立公園・特別保護地区内では、以下の行為が自然公園法で禁止されています

車両の進入　岩石・動植物などの採取・持ち出し

大島ジオパーク外周エリアマップ

IZUOSHIMA Coastline Area MAP







⑥ イマサキ

スリル満点の崖

マグマと海水が触れて起きた爆発的な噴火で丘ができ、やがて丘のふもとが波で削られ、切り立った崖となりました。崖には大小さまざまな石がたくさん挟まっていることから、激しい噴火だったことがわかります。海に囲まれた火山島では、火山と水のせめぎ合いが常に進行中です。



⑦ トウシキのボムサッグ

座布団を敷いた石

火山灰が降り積もった地面に、激しい噴火で飛んできた石が衝突してめり込んだ跡が残っています。その凹みの形状から、これらの噴石は、波浮港の火口ができた噴火のときに、500メートルほど離れたこの海岸まで飛んできたものと考えられています（※一部、崩落が進んでいます）。



⑧ 波浮港（はぶみなと）

火口が港に大変身！



9世紀初めの噴火で開いた火口に水がたまり、火口湖ができました。江戸時代、元禄地震の大津波で火口の縁が崩れて海とつながり、その後、残っていた大岩を人々が砕いて取り除き、1800年に「波浮港」として開港しました。切り立つ崖に周囲を守られているため、風待ち港としてたくさんの漁船が寄港し、昭和の半ば頃までおおいに栄えました。また、穏やかで美しいこの港町に保養や執筆で多くの歌人や作家たちが訪れ、大島をテーマにした作品を残しました。

⑨ カキハラ磯

噴石を載せた奇妙な塔

マグマと海水が接触した激しい噴火によって飛んできた噴石がふしぎな光景をつくりました。周辺の地面には“火山豆石”がたくさん見つかります。水分を多く含んだ噴煙の中で小さな岩片が核となり、周りに細かい火山灰がくっついて丸いカタマリになったものです。



⑩ 筆島（ふでしま）

火山は残った

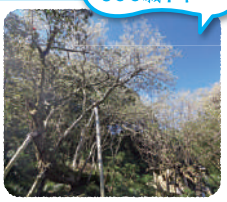
伊豆大島の誕生前、数十万年前までここで活動していた古い火山島の名残りです。火山活動を終えた島はやがて波に削られ、マグマの通り道で固まった硬い岩が海に取り残されました。
筆島の向かいの崖に見える灰色のスジは、マグマが大地を割り入った跡（岩脈）です。



⑪ 桜 株（さくらっかぶ）

オオシマザクラは800歳！？

溶岩はときどき、地面の高まりに生えている植物たちを残して、その周りを流れていきます。約500年前、そのようにして溶岩原に残ったサクラの巨木は、かつて航海の目印でした。800歳を超えた今も森の中にたたずみ、毎年春にはみごとな花を咲かせています。



⑫ 大島公園 動物園

動物園の岩山も溶岩

江戸時代の大噴火で三原山から海まで流れた溶岩地帯につくられた、自然地形を活かした動物園です。冷えかかった溶岩が、後から流れてきた溶岩に押されて盛り上がってできた岩山は、もともと岩の多い山地で暮らしていたバーバリーシープたちの素敵な住処となっています。



おすすめモデルコース

トレッキングで体験！

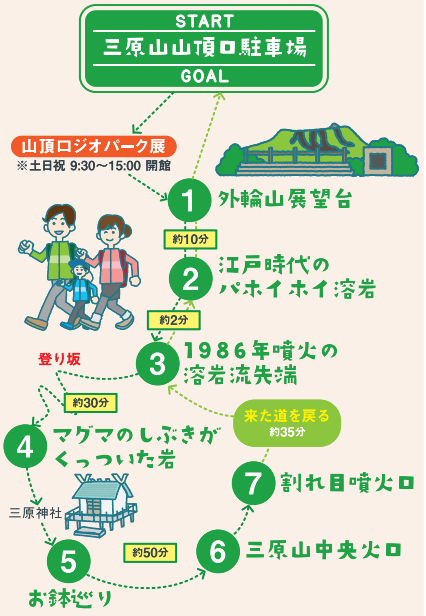
– Trekking Course –

Course 01 三原山お鉢巡りコース

体力 ☆☆

目安時間 約2時間40分
ガイド付きの場合：
3時間30分～4時間

カルデラ内にあふれ出た、生き生きとした溶岩流を間近に体感しながら三原山を登り、荒々しい噴火口や伊豆諸島・伊豆半島・富士山などの火山仲間を眺望できる、火山満喫コースです。生きている地球の息吹と体温が感じられます。



Course 02 三原山&裏砂漠フルコース

体力 ☆☆☆

目安時間 約3時間20分
ガイド付きの場合：5～6時間

三原山お鉢巡りから裏砂漠に立ち寄り、温泉ホテルまで歩くタフなコースです。裏砂漠体験のほか、1986年割れ目噴火がつくりあげた奇妙な溶岩原や、緑の森が再生していく過程の中を歩きます。火山の恵み・温泉ホテルの露天風呂で疲れを癒すのもオススメです！

※スタート地点とゴール地点が異なりますのでご注意ください
（発着地点ともに路線バスが運航しています［大島バス：TEL 04992-2-1822］）



おすすめモデルコースの注意事項について

**目安時間は休憩なしで歩き続けたときの時間です。
ゆっくり観察したい方、のんびり景色を楽しみたい方は
時間に余裕を持ってお出かけください！**

※足元の悪い場所を歩きます。トレッキングシューズまたは靴底の厚い運動靴を着用しましょう（足の疲労や怪我の危険性を軽減します）
※立入禁止区域や危険な場所には入らないでください。
※山頂は日陰がありません。熱中症予防にこまめな水分・塩分補給を心がけましょう。
※山頂周辺は平地と比べて風が強く天気が急変しやすいので、十分注意しましょう。
※強風時や濃霧時のお鉢巡りや裏砂漠歩きは非常に危険です。行程の中止や引き返しなど的確に判断して行動しましょう。



伊豆大島ジオパークをもっと楽しむ！

ガイドツアーのススメ

ジオガイドは、伊豆大島ジオパークで出会える景色や体験の奥にある「ふしぎ」を楽しく読み解くお手伝いをしています！

伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドが行うジオツアー
半日1名 5,000円（税別）から（2名様より催行）※2020年8月現在
お問い合わせ 大島観光協会 Tel.04992-2-2177

歩きながら探してみよう！

いくつ見つけられるかな？

❶外輪山展望台

お山にかかったチョコレート

伊豆大島火山の噴火がつくりあげた風景を一望できる展望台です。目の前に広がる平らなくぼ地（カルデラ）の中に、江戸時代の大噴火で誕生した三原山が見えます。山肌の黒いスジは、1986年の噴火で山頂の火口からあふれ出た溶岩流の跡です。



❷江戸時代のパホイホイ溶岩

溶岩だってシワがよる？

遊歩道を少し歩くと左側に、もこもことした溶岩の小山がいくつも見えてきます。この辺りの溶岩は、江戸時代の大噴火で流れ出たものです。ぶっくりとふくらんだおまんじゅうのような形や、何本も並んだ縄のようなふしぎな形の溶岩（パホイホイ溶岩）がたくさん見つかります！



❸1986年噴火の溶岩流先端

ゴッゴツ溶岩

1986年11月19日、山頂火口からあふれ出た溶岩は三原山の斜面を流れ下り、それまであった遊歩道をおおって、ここで止まりました。溶岩流の先端部の厚さは約5メートル、デコボコ・ゴツゴツした表面が特徴です。上に登って噴火当時の溶岩の流れを想像してみよう！



❹マグマのしぶきがくっついた岩

巨大なおはぎ？

この巨大な岩は、1986年噴火の際、火口の中で大量のマグマのしぶきが積み重なってできた、さらに巨大なブロックの一部が崩れたものです。火口からあふれ出た溶岩流に浮かんで流され約500メートルも運ばれて、三原山の斜面を下る手前のここで座礁しました。



❺お鉢巡り

わずか1時間のパノラマウォーク！



直径300～350メートル、深さ約200メートルの火口を見下ろしながら、周囲をぐるりとひと回りできる遊歩道です。
火口と反対側には島を取り囲む360度の海と、富士山、伊豆半島、伊豆諸島、房総半島、三浦半島の大パノラマが望めます。



❻三原山中央火口

壮大な穴はマグマの出口！



地球内部から上がってくるマグマの出口です。1986年噴火ではマグマがこの穴を満たし、ついにはあふれ出ました。火口の壁には、過去の噴火の溶岩や噴石が何重にも重なった層が見られます。周辺では、地下のマグマで水が温められ、白い湯気が上がっています。





⑦割れ目噴火口　炎のカーテン!



噴火はいつも山頂だけで起こるわけではありません。1986年には三原山の北側斜面で“割れ目噴火”が発生しました。南東から北西方向に約1キロメートルにわたってたくさんの火口が開き、噴き上がったマグマのしぶきは高さ1500メートルまで達しました。



⑧裏砂漠　黒い砂漠

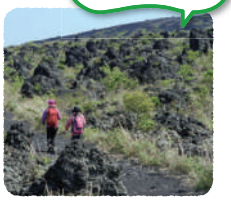


噴火のたびに細かい溶岩の粒や火山灰が降り積もり、黒い砂漠をつくりました。強い風の通り道であり、植物の種や芽生えを吹き飛ばしてしまうため、黒い景観が保たれています。そのような中でも、風を少し避けられる場所から徐々に植物の再生が始まります。

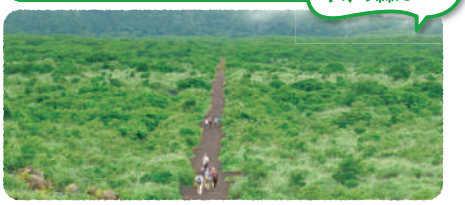


⑨ジオ・ロックガーデン　何に見えるかはあなた次第

さまざまな形の黒い岩が一面にニョキニョキと広がっています。1986年の“割れ目噴火”で降り積もったマグマのしぶきが、地表を流れる溶岩流に運ばれながら変形し、1日足らずでこの奇岩のガーデンをつくりあげました。何が見えるか、何に見えるかはあなた次第♪



⑩再生の一本道　黒一色の大地がやがて森に



厳しい環境に適応したパイオニア植物から命の再生が始まります。噴火によって黒一色となった地面が次第に草原となり、木が生え、森となる数百年間の物語をこの一本道でたどることができます。





「再生の一本道」は、「いつか森になる道」と「こもれびトンネル」という2つの区間に分かれています。

⑪赤ダレ　真っ赤な渓谷

近くの火口から溶岩が降り積もり、丘ができました。溶岩は高温の状態で空気に十分触れたため、酸化して赤くなりました。その後、長い年月をかけ侵食されて丘の内部が現れ、赤い渓谷が生まれました。谷の先に広がる海には伊豆諸島が望めます。



Ⓒ三原山山頂口 ジオパーク展　登る前に行ってみよう!

外輪山展望台すぐそば、「展望避難休憩舎」の1階にあります。ガイドさん常駐! 季節・天気に応じた見どころ情報など、お気軽にご相談ください。1986年噴火の映像も見られます!

【開館】土・日・祝　9:30〜15:00
【料金】無料



伊豆大島は若くて元気な火山島です!

伊豆大島は海底噴火から誕生した、島そのものがひとつの「活火山」です。これまで幾度となく噴火を繰り返して、この島をつくりあげました。



火山活動の状況は、国や大学等が火山観測機器を多数設置し、気象庁が常時監視しています。もし火山に異常があれば防災行政無線でお知らせします。しかし、突発的な現象には注意が必要です。火山活動の現況や、登山中に万が一、突発的な噴火が起こった場合の対処方法を事前にご確認ください。



山頂登山口（歌乃茶屋・展望避難休憩舎）では、火山噴火の備えをまとめたポスターや無料貸し出しヘルメットをご用意しています。

\要CHECK!/



伊豆大島の火山活動状況（気象庁）